



株式会社 **ニコン**
広報・IR部

2011年3月期 決算説明会

2011年5月12日
株式会社ニコン

※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスク及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

Agenda

- I . 2011年3月期の概況**
- II . 2012年3月期の見通し
- III . 参考データ

2011年3月期 連結売上高・損益

単位: 億円	10年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/3)	上期 下期	11年3月期 実績	上期 下期	前年 実績比	前回 予想比
売上高	7,855	$\frac{3,681}{4,174}$	8,700	$\frac{3,980}{4,720}$	8,875	$\frac{3,980}{4,895}$	+1,020	+175
営業利益 売上高比	▲139 -%	$\frac{▲195}{56}$	480 5.5%	$\frac{152}{328}$	541 6.1%	$\frac{152}{389}$	+680	+61
経常利益 売上高比	▲153 -%	$\frac{▲223}{70}$	490 5.6%	$\frac{178}{312}$	558 6.3%	$\frac{178}{380}$	+711	+68
当期純利益 売上高比	▲126 -%	$\frac{▲177}{51}$	300 3.4%	$\frac{106}{194}$	273 3.1%	$\frac{106}{167}$	+399	▲27
FCF	564		670		1,000		+436	+330
為替: ドル ユーロ	93 131	$\frac{96}{90}$ $\frac{133}{129}$	85 112	$\frac{89}{81}$ $\frac{114}{111}$	86 113	$\frac{89}{82}$ $\frac{114}{112}$	売上高への影響額(億円) ▲620 +67 営業利益への影響額(億円) ▲277 +14	

円高と震災の影響を吸収し、増収・黒字転換。
映像の好調継続と、精機・インストルメンツの回復が寄与

* 前回予想とは2011年2月3日発表における予想です。 * スライドで使用している数値はすべて億円未満は四捨五入してあります。

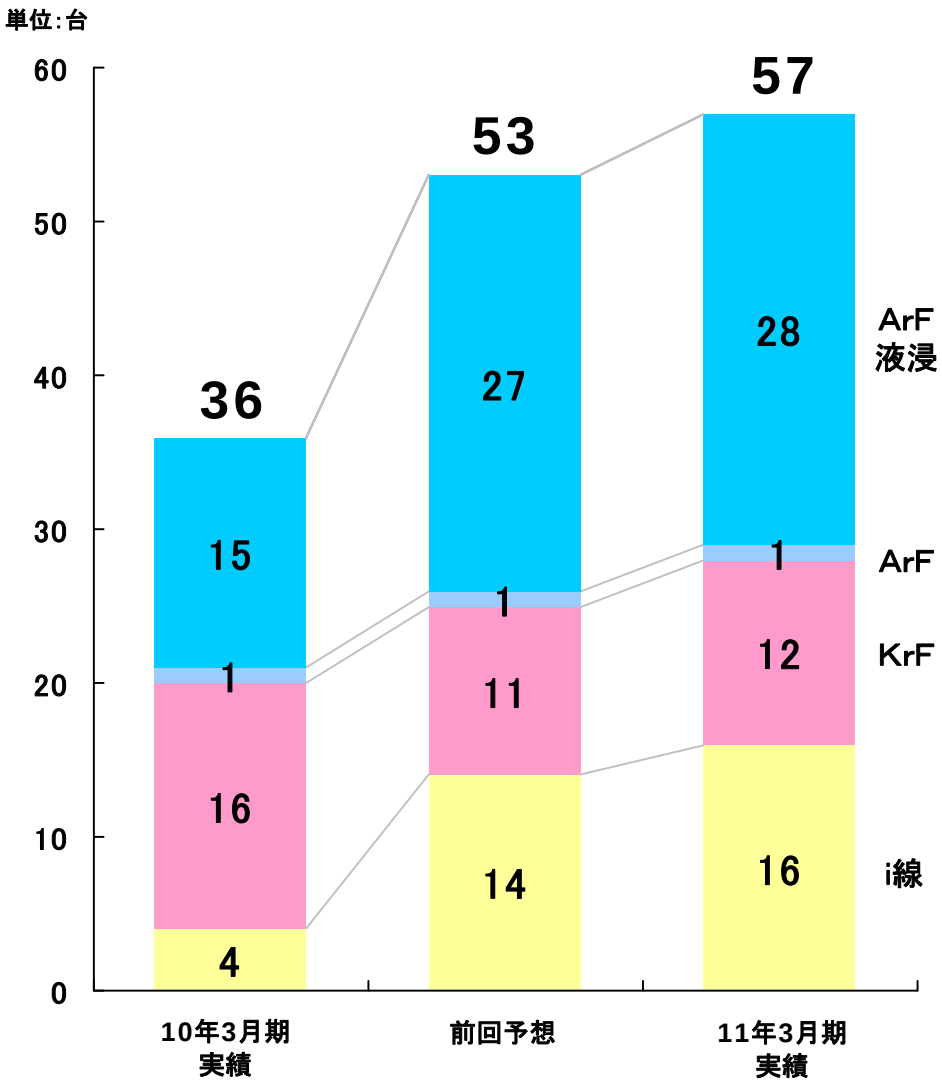


	10年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/3)	上期 下期	11年3月期 実績	上期 下期
売上高	1,501億円	$\frac{663}{838}$	2,150億円	$\frac{807}{1,343}$	2,086億円	$\frac{807}{1,279}$
営業利益 売上高比	▲586億円 - %	$\frac{▲440}{▲146}$	40億円 1.9 %	$\frac{▲47}{87}$	27億円 1.3 %	$\frac{▲47}{74}$
半導体露光装置 新品/中古	36/13台	$\frac{18/4}{18/9}$	53/24台	$\frac{18/12}{35/12}$	57/25台	$\frac{18/12}{39/13}$
液晶露光装置	45台	$\frac{16}{29}$	62台	$\frac{23}{39}$	57台	$\frac{23}{34}$
半導体露光装置 市場規模	112台		220台程度		280台	
液晶露光装置 市場規模	74台		110台程度		113台	

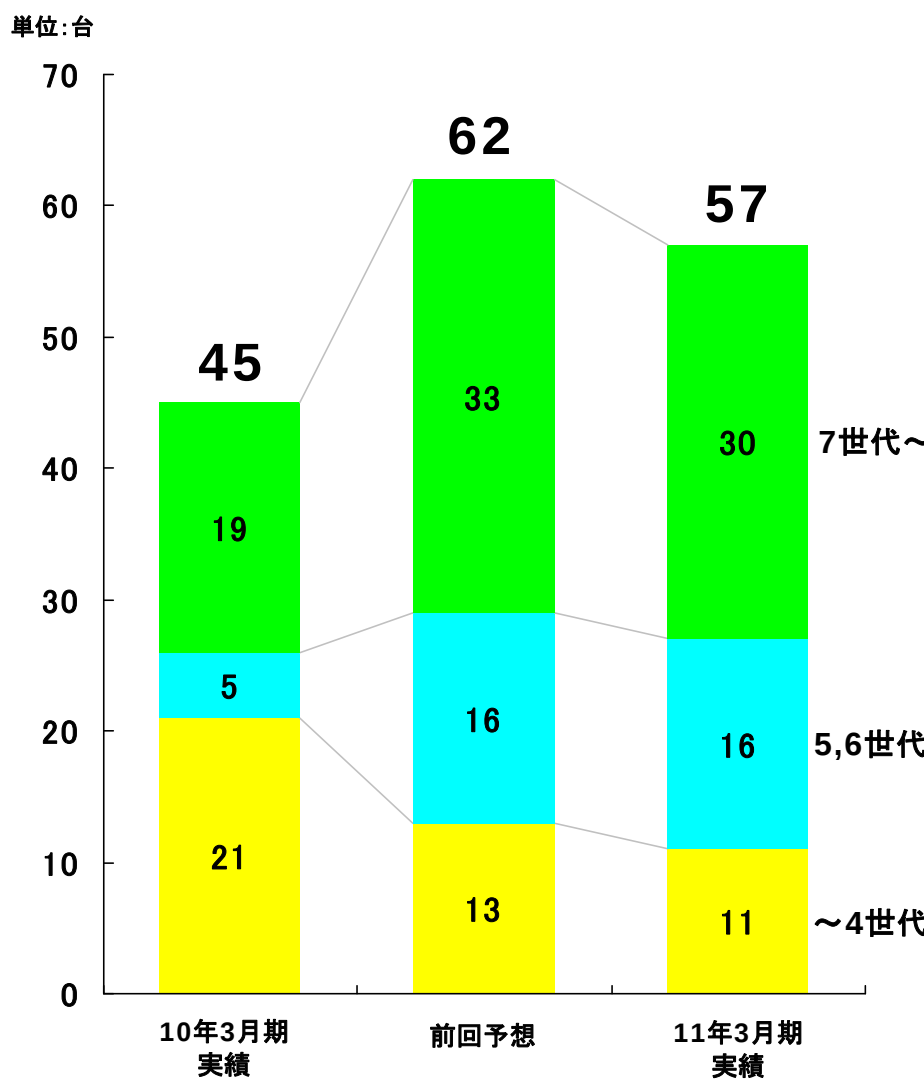
半導体・液晶露光装置ともに販売台数増加。前年に400億円近く計上した
棚卸廃棄評価減が大幅減少したこともあり、4割弱の増収・黒字転換達成



半導体露光装置光源別販売台数



液晶露光装置世代別販売台数



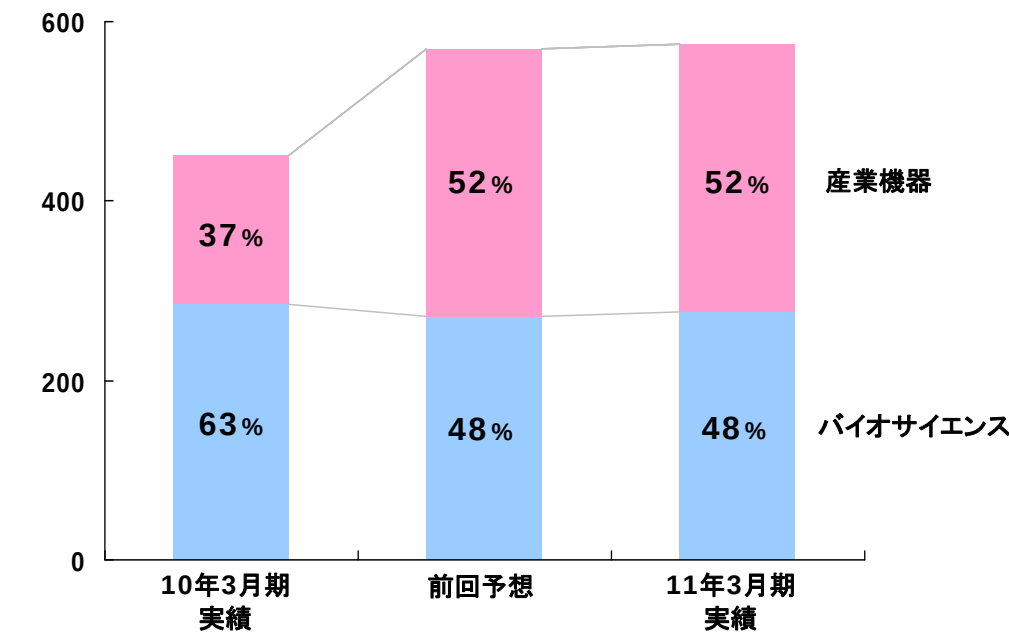
	10年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/3)	上期 下期	11年3月期 実績	上期 下期
売上高	5,695億円	$\frac{2,753}{2,942}$	5,750億円	$\frac{2,818}{2,932}$	5,964億円	$\frac{2,818}{3,146}$
営業利益 売上高比	521億円 9.1%	$\frac{265}{256}$	460億円 8.0%	$\frac{223}{237}$	523億円 8.8%	$\frac{223}{300}$
デジタル一眼レフ カメラ	367万台	$\frac{166}{201}$	425万台	$\frac{190}{235}$	429万台	$\frac{190}{239}$
交換レンズ	545万本	$\frac{245}{300}$	635万本	$\frac{295}{340}$	636万本	$\frac{295}{341}$
コンパクトデジタル カメラ	1,151万台	$\frac{513}{638}$	1,400万台	$\frac{670}{730}$	1,426万台	$\frac{670}{756}$
デジタル一眼レフ カメラ市場規模	1,088万台		1,300万台		1,414万台	
交換レンズ市場規模	1,772万本		2,200万本		2,327万本	
コンパクトデジタル カメラ市場規模	10,274万台		11,200万台		10,741万台	

円高にも拘らず前年比増収・増益。一眼レフの生産・販売は4Qに回復。
コンパクトは期を通じて好調維持



	10年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (2/3)	上期 下期	11年3月期 実績	上期 下期
売上高	451億円	$\frac{178}{273}$	570億円	$\frac{242}{328}$	575億円	$\frac{242}{333}$
営業利益 売上高比	▲93億円 -%	$\frac{\blacktriangle 26}{\blacktriangle 67}$	▲55億円 -%	$\frac{\blacktriangle 41}{\blacktriangle 14}$	▲52億円 -%	$\frac{\blacktriangle 41}{\blacktriangle 11}$

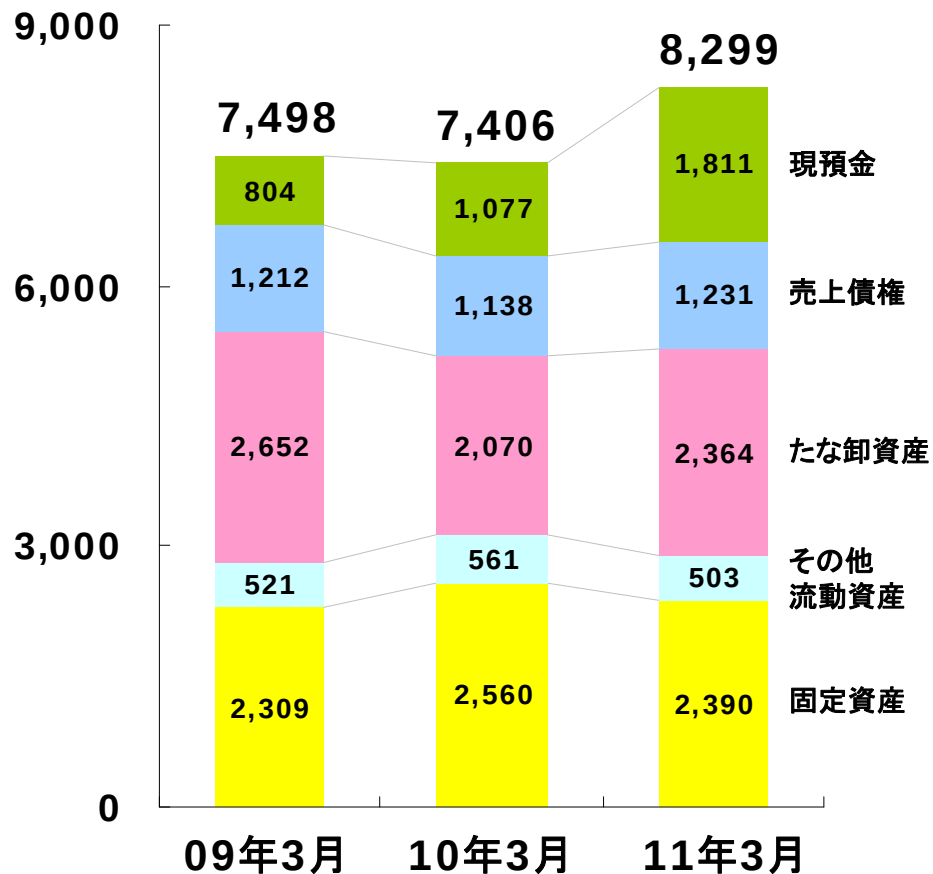
単位: 億円



円高を産業機器分野の回復で吸収し、
大幅増収・赤字幅半減。
4Qは12四半期ぶりに黒字化

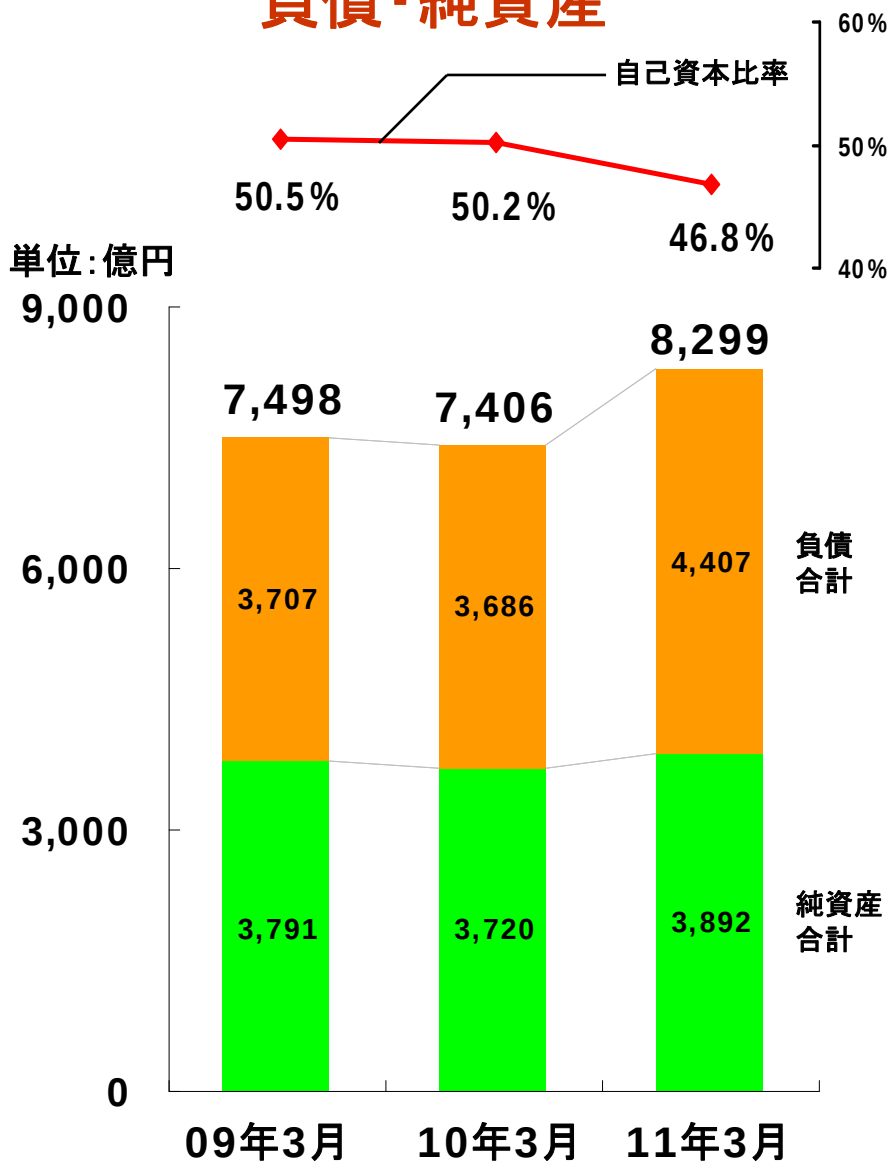
資 産

単位: 億円

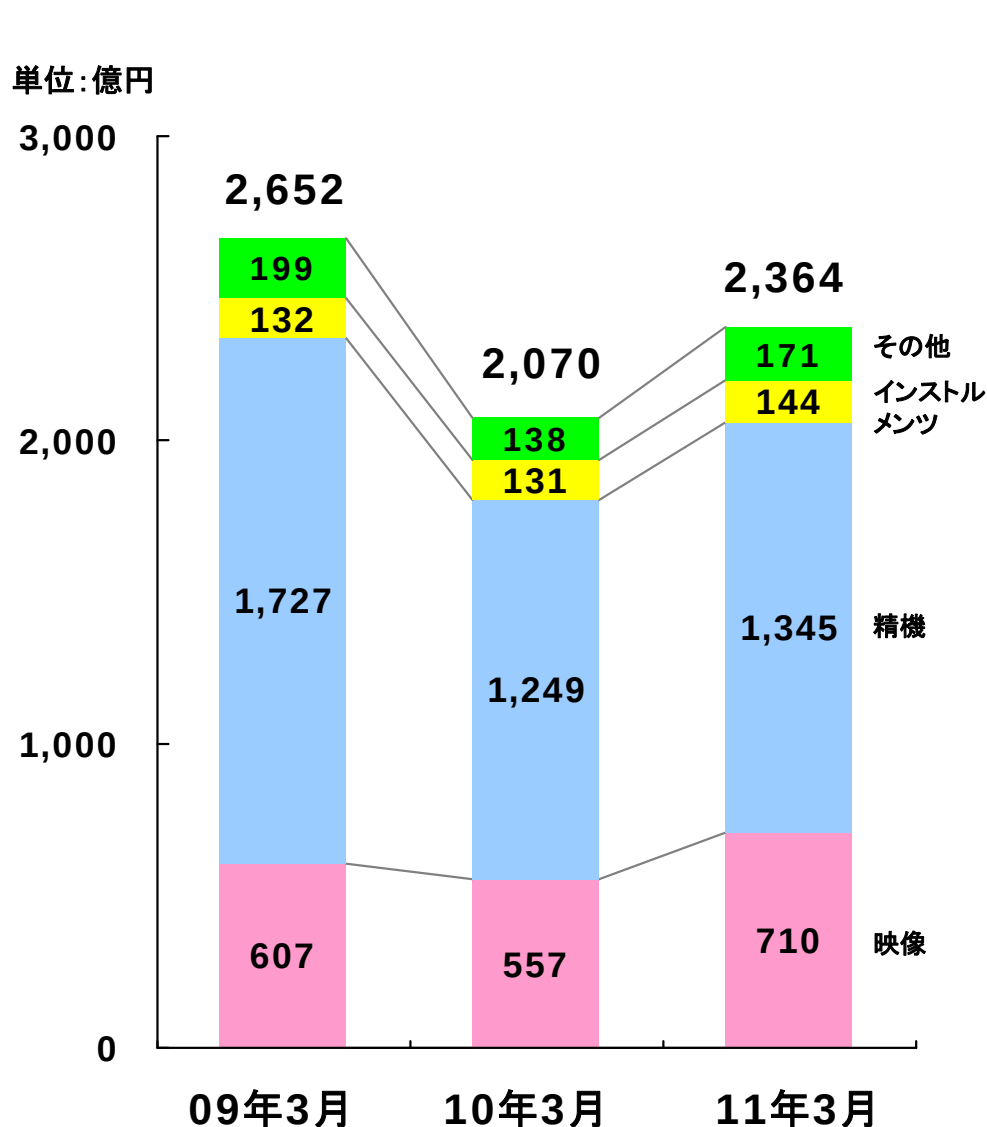


負債・純資産

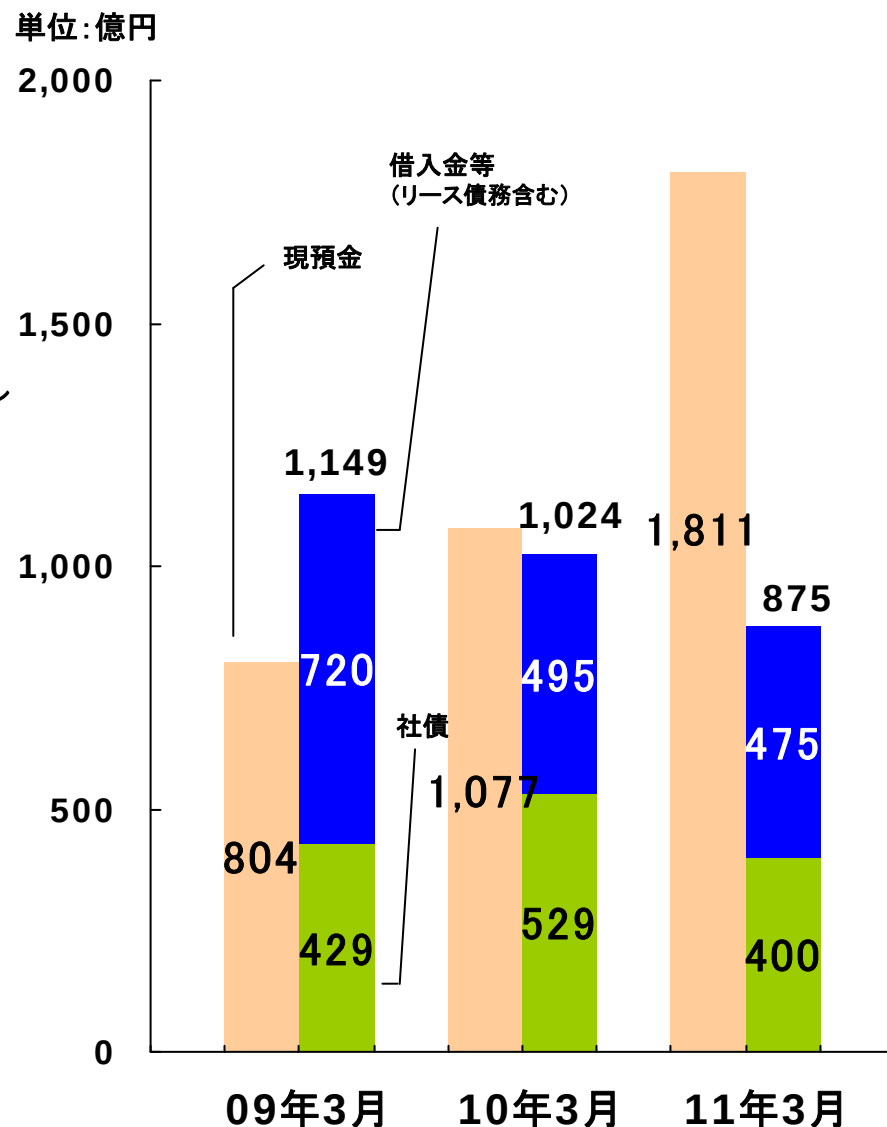
単位: 億円



棚卸資産



有利子負債・現預金



◆ 前年比増収・黒字転換

【精機】

- ・市場回復があり、予定どおり通期の黒字化を達成
- ・ArF液浸スキャナーS620Dは、2月時点でスループットの最終目標 200枚/hを達成

【映像】

- ・円高や部品調達難を乗り越え、増収・増益

【インストルメンツ】

- ・産業機器分野の回復もあり、4Qは12四半期ぶりに黒字化

◆ 震災の影響

- ・売上高 ▲80億円
- ・営業利益 ▲30億円
- ・特別損失 23億円（設備・棚卸などの修理費用、操業停止損ほか）

◆ 期末配当金は14円、年間配当金は19円（配当性向 27.6%）

Agenda

I. 2011年3月期の概況

II. 2012年3月期の見通し

III. 参考データ

◆ 生産拠点の震災被害と復旧状況

- ・宮城県、栃木県、茨城県にある1製作所・7製造会社が操業を停止
- ・各生産拠点は3月中に順次生産を再開し、現時点で生産能力は震災前の状態に回復

◆ サプライチェーン関連の影響

- ・震災により部材サプライチェーンがダメージを受けた。震災前の状態に戻るのは、秋以降と想定
- ・2012年3月期への影響金額は、売上高▲1,200億円、営業利益▲300億円

◆ 全社費用の配分方法を変更

- ・2011年3月期までは、全社費用を各事業に配分していた。
2012年3月期から、全社費用の一部を配分しない方法に変更した
(以降のスライドでは、「新方式」と表記)

2012年3月期見通し 連結売上高・損益



単位:億円

	11年3月期 実績	上期 下期	12年3月期 見通し	上期 下期	前年実績比
売上高	8,875	<u>3,980</u> 4,895	9,400	<u>4,350</u> 5,050	+525
営業利益 売上高比	541 6.1%	<u>152</u> 389	680 7.2%	<u>250</u> 430	+139
経常利益 売上高比	558 6.3%	<u>178</u> 380	700 7.4%	<u>260</u> 440	+142
当期純利益 売上高比	273 3.1%	<u>106</u> 167	420 4.5%	<u>160</u> 260	+147
FCF	1,000		500		-500
為替:ドル (円) ユーロ	86 113	<u>89</u> 82 <u>114</u> 112	80 115		売上高への予想影響額 約▲330億円 営業利益への予想影響額 約▲30億円

震災による部材調達難＝生産・販売制約に加え、為替は平均すれば円高の環境であるが、前スライドの前提で増収・増益を見込む

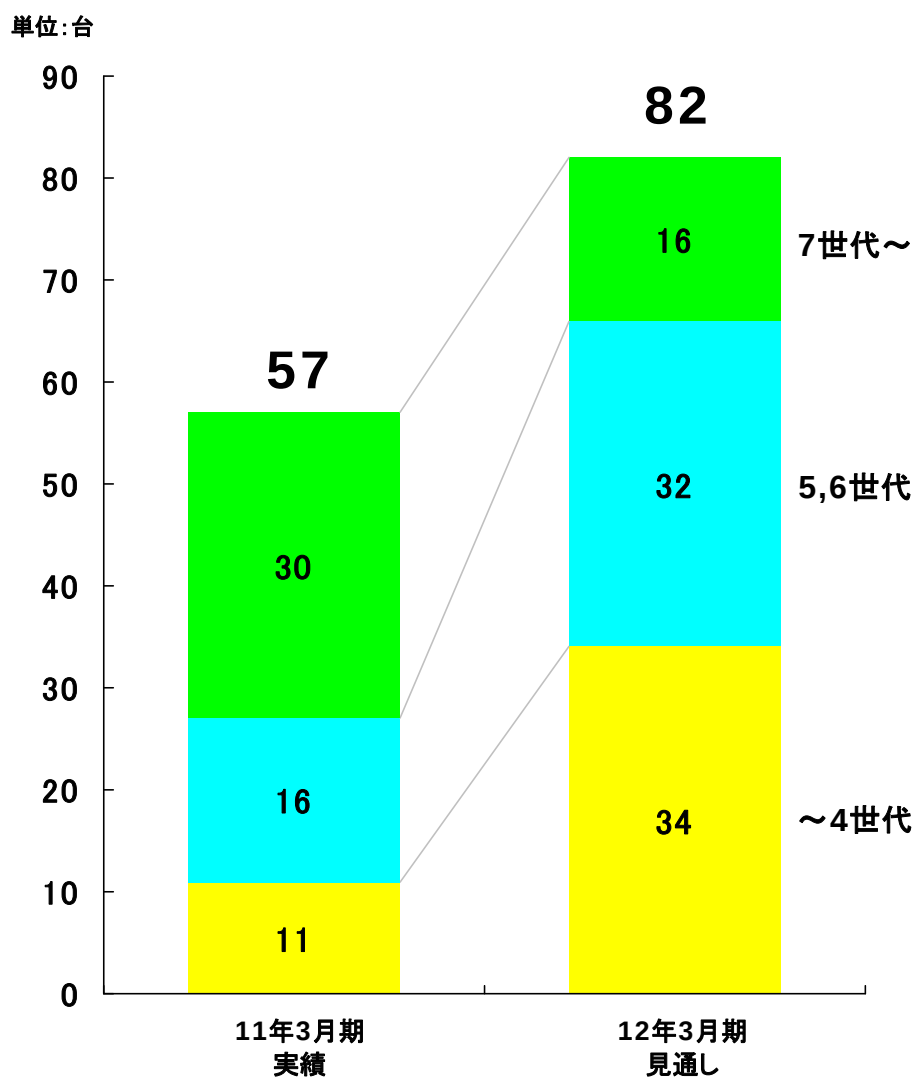
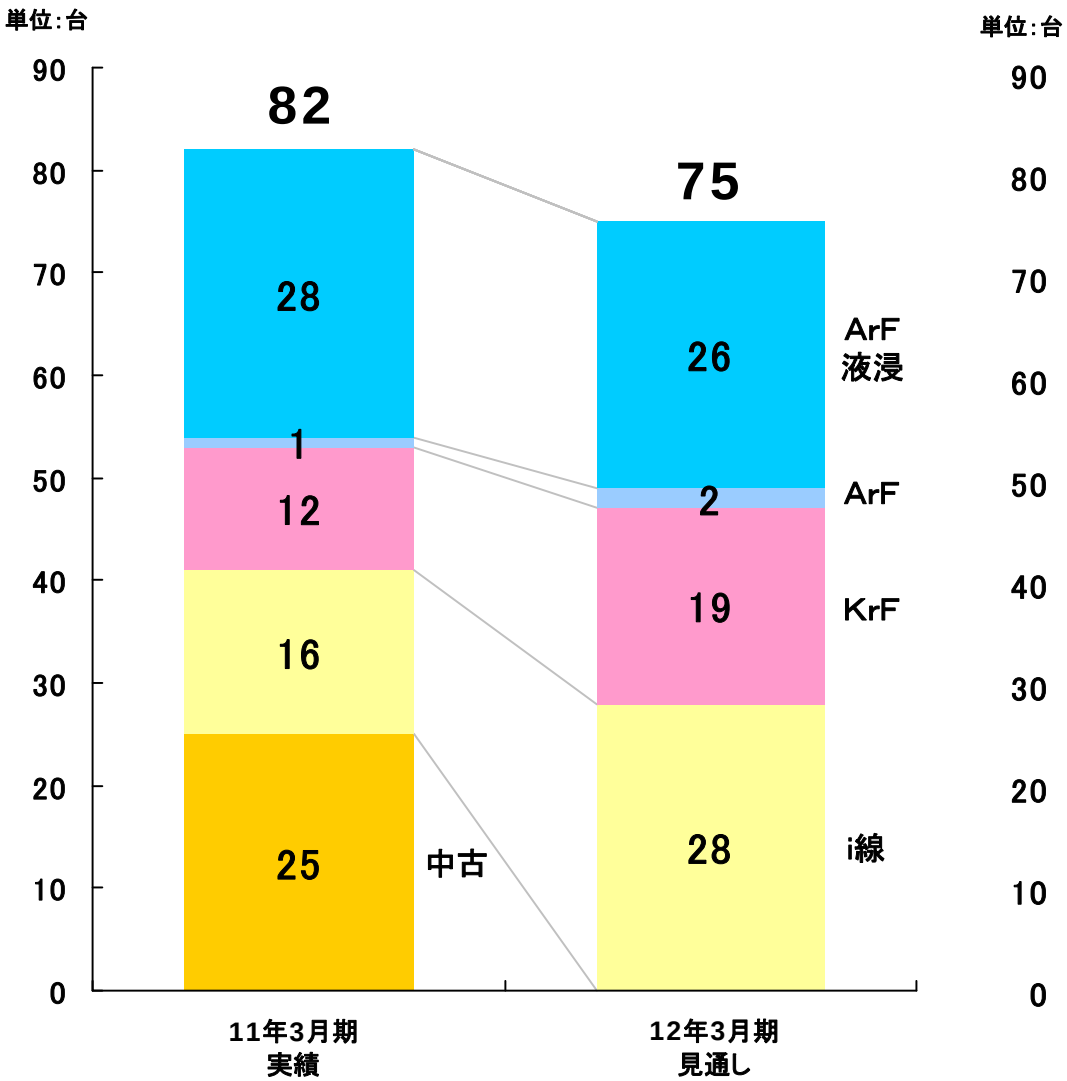


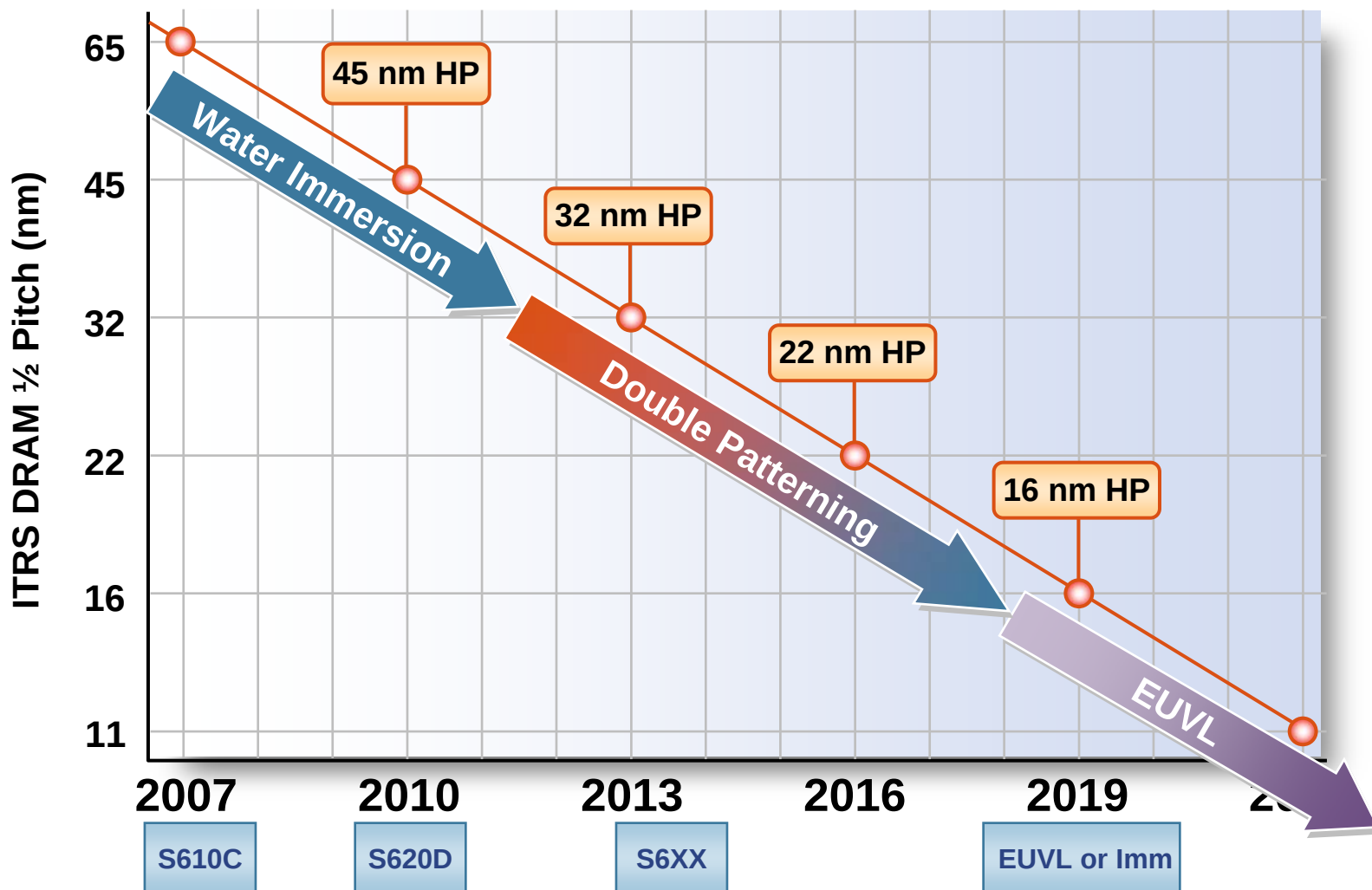
	11年3月期 実績	上期 下期	12年3月期 見通し	上期 下期
売上高	2,086億円	$\frac{807}{1,279}$	2,650億円	$\frac{1,230}{1,420}$
営業利益 実績(参考:新方式) 売上高比	27億円(83億円) 1.3% (4.0%)	$\frac{\Delta 47}{74}$ ($\frac{\Delta 20}{103}$)	310億円 11.7%	$\frac{130}{180}$
半導体露光装置 新品／中古	57/25台	$\frac{18/12}{39/13}$	60/15台	$\frac{25/8}{35/7}$
液晶露光装置	57台	$\frac{23}{34}$	82台	$\frac{44}{38}$
半導体露光装置 市場規模	280台		280台程度	
液晶露光装置 市場規模	113台		120台程度	

半導体・液晶露光装置ともに市場はほぼ横ばいの予想だが、半導体用の収益性改善と、液晶用の販売台数増加で増収・大幅増益の見込み



半導体露光装置光源別販売台数(中古含む) 液晶露光装置世代別販売台数





量産において22 nmまでは液浸ダブルパターニング
EUVL は16 nm以降(量産2018年～)と見込む

2012年3月期見通し 映像カンパニー

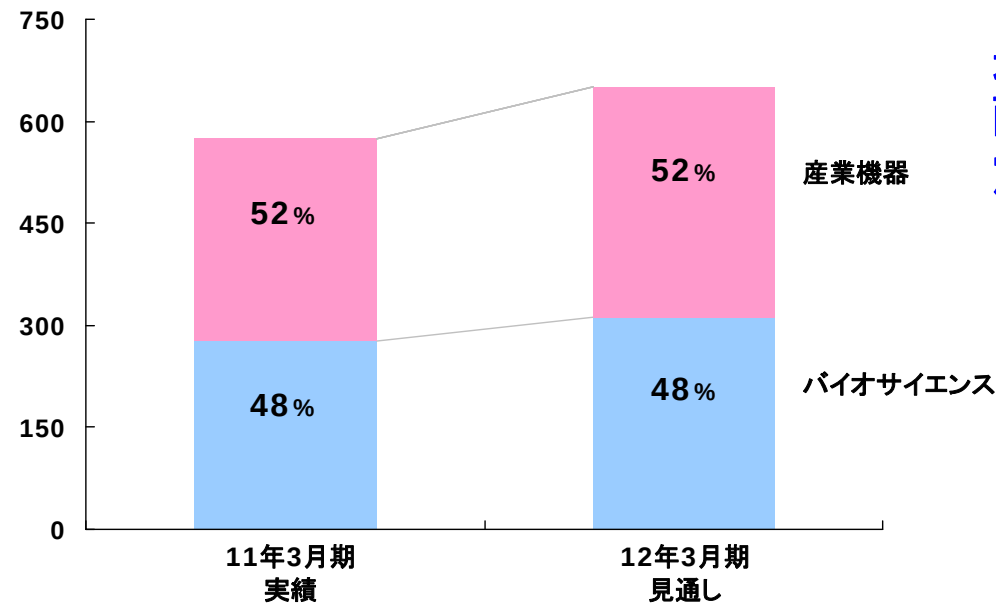
	11年3月期 実績	上期 下期	12年3月期 見通し	上期 下期
売上高	5,964億円	$\frac{2,818}{3,146}$	5,850億円	$\frac{2,750}{3,100}$
営業利益 実績（参考：新方式） 売上高比	523億円（614億円） 8.8%（10.3%）	$\frac{223}{300}$ （ $\frac{269}{345}$ ）	530億円 9.1%	$\frac{240}{290}$
デジタル一眼レフカメラ	429万台	$\frac{190}{239}$	前年比微増	
交換レンズ	636万本	$\frac{295}{341}$	前年比微増	
コンパクトデジタルカメラ	1,426万台	$\frac{670}{756}$	ほぼ前年並み	
デジタル一眼レフ カメラ市場規模	1,414万台		—	
交換レンズ市場規模	2,327万本		—	
コンパクトデジタルカメラ 市場規模	10,741万台		—	

需要と商品競争力は強いが、部材調達難＝生産・販売制約に加え、サプライチェーン
 復旧後の競争激化や円高が見込まれ、減収・減益の見通し



	11年3月期 実績	上期 下期	12年3月期 見通し	上期 下期
売上高	575億円	$\frac{242}{333}$	650億円	$\frac{260}{390}$
営業利益 実績（参考：新方式） 売上高比	▲52億円（▲38億円） - % / - %	$\frac{▲41}{▲11}$ （ $\frac{▲34}{▲4}$ ）	5億円 0.8 %	$\frac{▲25}{30}$

単位：億円



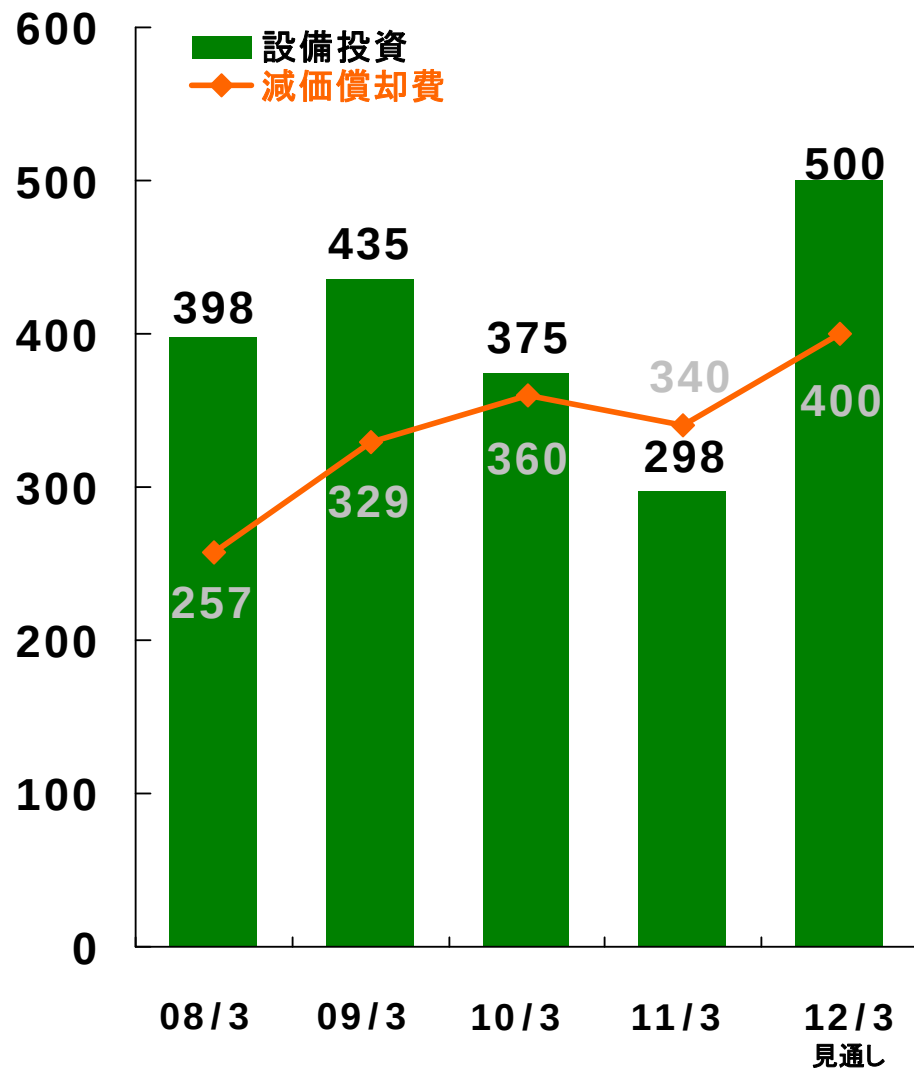
通期黒字化の計画。ただし、全社費用配分方法変更前の基準での黒字化は、震災の影響で一年延びる

2012年3月期見通し 設備投資・減価償却費 研究開発費



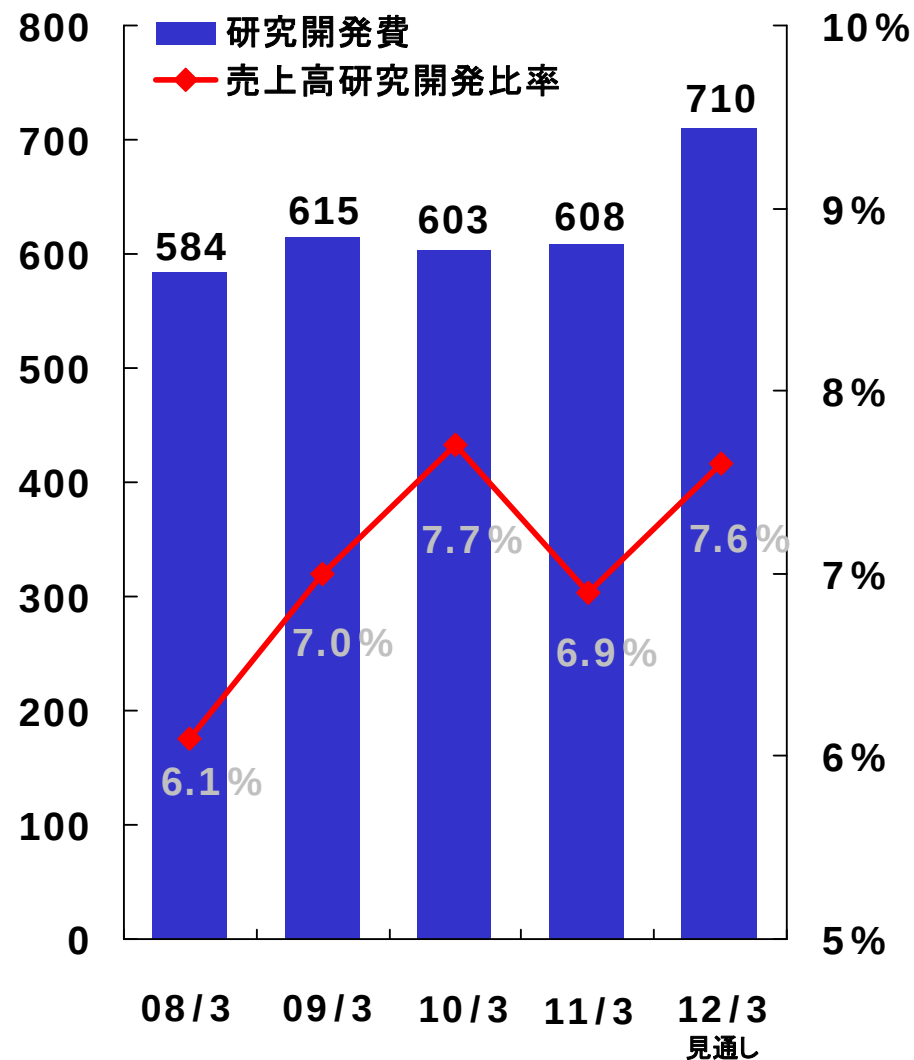
【設備投資・減価償却費】

単位: 億円



【研究開発費】

単位: 億円



注) 09/3以降には、リース会計基準の変更に伴うリース資産の取得額を含む。

◆ 部材サプライチェーンのダメージは大きいが、秋以降正常化の前提で増収増益確保の見通し

【精機】

- ・ArF液浸スキャナーS620Dの仕上げ
- ・リードタイム短縮を更に推進
- ・半導体・液晶露光装置ともに、数台ずつ販売が来期にシフト

【映像】

- ・新興国市場の開拓・浸透を強化
- ・新世代カメラの開発

【インストルメンツ】

- ・ハイエンドシステム商品（バイオ）、非接触三次元測定機（産業）の開発

◆ 年間配当金は 27円（中間配当金 10円）を予定

Agenda

I. 2011年3月期の概況

II. 2012年3月期の見通し

III. 参考データ

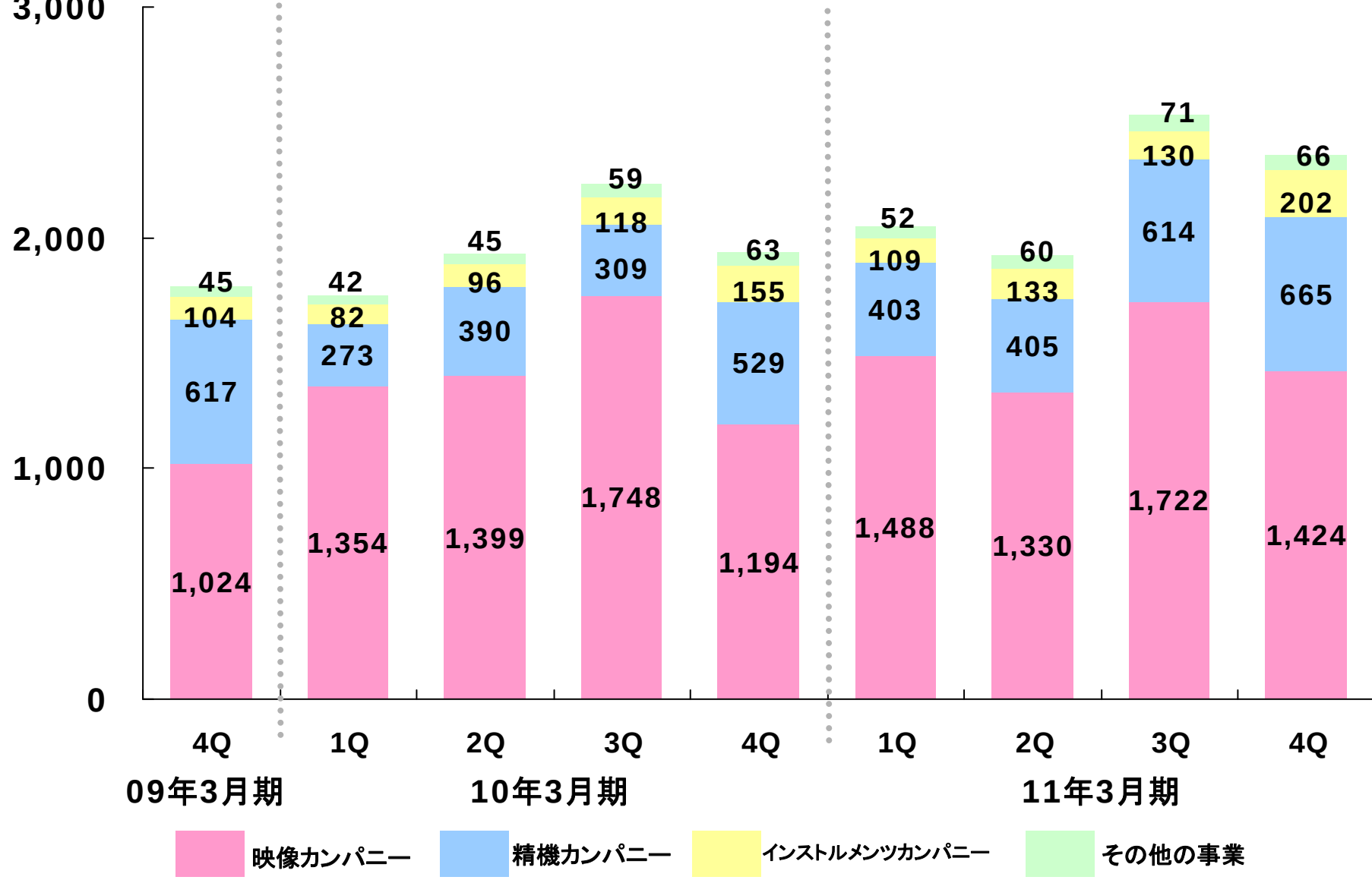
2012年3月期 見通し

	為替レート	1円の変動による影響額	
	12年3月期 前提	売上高	営業利益
USドル	80 円	62 億円	9 億円
ユーロ	115 円	20 億円	14 億円

参考データ 四半期セグメント別売上高推移



単位: 億円
3,000



参考データ 四半期セグメント別営業利益推移

単位: 億円

